大阪公立大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛、緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康、福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器、循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前、術中、術後の患者の全身状態を良好に維持、管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識、技術、態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。また専門研修指導医は別途資料**麻酔科専攻医指導者マニュアル**に則って指導を行い、自らも研鑽に務めるものとする。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修内容、進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、大学院博士課程併設のローテーション（後述のローテーション例B)、集中治療を学びたい者へのローテーション（ローテーション例C)、小児麻酔を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。

研修実施計画例

	A（標準）	B（大学院）	C (集中治療)	D（小児麻酔）
初年度前期	大阪公大病院	大阪公大病院	住友病院	大阪公大病院
初年度後期	大阪公大病院	大阪公大病院	住友病院	大阪公大病院
2年度前期	大阪公大病院(心臓麻酔)	関西電力病院(救急、集中治療)	大阪公大病院	大阪公大病院(小児麻酔)
2年度後期	大阪公大病院(ペイン)	関西電力病院(救急、集中治療)	大阪公大病院(救急、集中治療)	大阪公大病院(ペイン）
3年度前期	大阪労災病院	大阪公大病院(大学院、心臓麻酔)	大阪公大病院（心臓麻酔）	大阪市立総合医療センター
3年度後期	大阪労災病院(心臓麻酔)	大阪公大病院(大学院、心臓麻酔)	大阪公大病院（心臓麻酔）	大阪市立総合医療センター(小児麻酔)
4年度前期	JCHO大阪病院	大阪公大病院(大学院、ペイン)	兵庫医科大学附属病院(集中治療)	兵庫県立こども病院
4年度後期	JCHO大阪病院(集中治療)	大阪公大病院(大学院、ペイン)	兵庫医科大学附属病院(集中治療)	兵庫県立こども病院

週間予定表

大阪公大病院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直					当直		

- 症例検討会は毎朝8:00-8:20の間に行う。
- 抄読会は週2回、7:45-8:00の間に行う。
- 心臓外科、循環器内科等との合同症例検討会は木曜日の17:30に行う。

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

大阪公立大学医学部附属病院（以下、大阪公大病院）

研修プログラム統括責任者：森　隆

研修プログラム統括副責任者：堀　耕太郎

専門研修指導医：森　隆(麻酔)
松浦　正 (麻酔、心臓血管外科麻酔)
末廣　浩一 (麻酔、心臓血管外科麻酔、集中治療)
矢部　充英 (麻酔、ペインクリニック、緩和医療)
舟井　優介 (麻酔、小児麻酔、心臓血管外科麻酔)
堀　耕太郎 (麻酔、心臓血管外科麻酔)
藤本　陽平 (麻酔、産科麻酔)
日野　秀樹 (麻酔、小児麻酔、心臓血管外科麻酔)
辻川　翔吾 (麻酔、ペインクリニック、緩和医療)
重里　尚 (麻酔、心臓血管外科麻酔、集中治療)
木村　文 (麻酔)

救命救急センター教授　西村　哲郎(救急、集中治療)

集中治療センター長　藤井　弘通（集中治療科）

認定施設番号：11

2025 年度麻酔科管理症例数：6734 症例

麻酔科管理全症例数	6734
小児（6 歳未満）の麻酔	130
帝王切開術の麻酔	305
心臓血管外科手術の麻酔	343
胸部外科手術の麻酔	438
脳神経外科の麻酔	396

特徴： 機構専門医研修に必要な全症例を当施設で経験可能です。また、大学院博士課程並びにペインクリニックを併設しておりますので、博士号取得並びにペインクリニック認定医取得と機構専門医取得を両立できます。

② 専門研修連携施設

1) 大阪ろうさい病院

研修実施責任者：松浦　康司

専門研修指導医：松浦　康司 (麻酔、救急)
山下　淳（心臓麻酔）
宮田　嘉久（麻酔）
貴志　暢之（麻酔、ペインクリニック）
横川　直美（麻酔、ペインクリニック）
桂　ナリ（麻酔）
内本　明宏（麻酔、心臓麻酔）
認定施設番号：197

特徴：当院は 645 床の総合病院であり、小児外科以外のほぼすべての科の麻酔症例が経験できる。ペインクリニックも希望があれば考慮できる環境であるがまずは麻酔科医としての自立促進を最優先で考えている病院である。麻酔方法は麻酔科医に一任してているが、直近は吸入麻酔だけではなく静脈麻酔にも力を入れており昨年は静脈麻酔の比率が 4 割を超えるまでになってきた。このように麻酔科医として質の高い麻酔管理ができるように指導医、スタッフ一同全力で支援している。

2)　(財団法人)住友病院

研修実施責任者：吉川　範子
専門研修指導医：吉川　範子(麻酔)
中本　あい(麻酔、集中治療)
濱田　拓(麻酔)
堀田　有沙(麻酔、集中治療)
藤田　尚子(麻酔、小児麻酔、心臓麻酔)
鳥井　直子(麻酔、小児麻酔)
西村　杏香(麻酔、ペインクリニック)
松浦　洋史(麻酔)
認定施設番号：67

2025 年度麻酔科管理症例数：2833 症例

麻酔科管理全症例数	2833
小児（6 歳未満）の麻酔	4
心臓血管外科手術の麻酔	111
呼吸器外科手術の麻酔	114
脳神経外科の麻酔	22

特徴：住友病院は大正10年（1921年）7月、住友グループの社会貢献活動の一環として、地域の方々に質の高い医療を提供することを目的に「大阪住友病院」が開設されました。平成12年（2000年）9月には新病院を建設し、令和4年（2022年）地域医療支援病院として承認されました。高度で良質な医療が提供できるよう、スタッフと設備を充実し、院内の各種体制の充実を図りながら今日に至っています。病院の理念は「信頼性の高い医療で社会に貢献」としています。

3)　独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)大阪病院

研修実施責任者：田中　克明
専門研修指導医：田中　克明(麻酔)
佐藤　善一(麻酔、集中治療)
山間　義弘(麻酔)
荒井　章臣(麻酔)
柏井　朋子(麻酔)
清水　雅子(麻酔、ペインクリニック、緩和医療)
認定施設番号：45

4)　関西電力病院

研修実施責任者：中筋　正人
専門研修指導医：中筋　正人(麻酔)
田中　益司(麻酔、ペインクリニック)
今中　宣依(麻酔)
大橋　直紹(救急、集中治療)
端野　琢哉(救急、集中治療)
渡邊　千恵(麻酔、心臓血管麻酔)
羽阪　めぐみ(麻酔)
中筋　加恵(麻酔)
平井　杏奈（麻酔）
藤井　哲也（麻酔）
認定施設番号：226

5)　JCHO　星ヶ丘医療センター

研修実施責任者：辻村　茂久
専門研修指導医：辻村　茂久(麻酔)
名本　和子(麻酔)
大倉　奈保美(麻酔)

認定施設番号：125

6)　岸和田徳洲会病院

研修実施責任者：土屋　正彦

専門研修指導医：土屋　正彦(麻酔、集中治療)
大前　典昭（麻酔）
高木　治(麻酔、心臓麻酔)

認定施設番号：1170

7)　市立伊丹病院

研修実施責任者：外間　之貴

専門研修指導医：外間　之貴(麻酔)
木村　健一(麻酔)
久米川　博之(麻酔)
藤嵜　江美子(麻酔)
澤登　慶治(麻酔)
日山　愛(麻酔)
藤田　麻耶(麻酔)

認定施設番号：330

8)　宝生会　PL 病院

研修実施責任者：飯室　慎祐

専門研修指導医：飯室　慎祐(麻酔)
米田　卓史(麻酔)
福田　一成(麻酔)

認定施設番号：538

9)　富永病院　(医療法人寿会)

研修実施責任者：野村　哲也

専門研修指導医：野村　哲也(麻酔)
岸　勝佳(麻酔)
河野　靖生(麻酔)
猪原　智惠(麻酔)
田中　成和（麻酔）

認定施設番号：1047

10) 兵庫県立こども病院

研修実施責任者：香川　哲郎

専門研修指導医：香川　哲郎（小児麻酔）
高辻　小枝子（小児麻酔）
大西　広泰（小児麻酔）
宮本　義久（小児麻酔）
上嶋　江利（小児麻酔）
末田　彩（小児麻酔）
藤原　孝志（小児麻酔）
田中　康智（小児麻酔）
上野　真穂（小児麻酔）

認定施設番号：93

2025年度麻酔科管理症例数　3839症例

麻酔科管理全症例数	3839
小児（6 歳未満）の麻酔	1724
帝王切開術の麻酔	125
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	244
胸部外科手術の麻酔	5
脳神経外科手術の麻酔	72

特徴：小児、周産期医療専門病院として、一般的な小児外科症例や各科の小児症例のほか、新生児手術、小児開心術、日帰り手術、血管造影等の検査麻酔、病棟での処置麻酔、緊急帝王切開等、一般病院では扱うことが少ない症例経験が可能。
小児がん拠点病院、地域医療支援病院、小児救急救命センター。

11) 和泉市立総合医療センター

研修実施責任者：稲森　雅幸

専門研修指導医：稲森　雅幸(麻酔、集中治療)
梶川　竜治(麻酔)
橋村　俊哉(麻酔)
若林　美帆(麻酔)

認定施設番号：1788

12) 兵庫医科大学病院

研修実施責任者：植木　隆介

専門研修指導医：狩谷　伸享　（麻酔、産科麻酔、 緩和医療）
髙雄　由美子（麻酔、ペインクリニック、疼痛治療全般）
植木　隆介（麻酔、心臓麻酔、術後疼痛）
竹田　健太（麻酔、集中治療）
井手　岳　（麻酔、集中治療）
奥谷　博愛（麻酔、ペインクリニック、心臓麻酔）
田口　真奈（麻酔、集中治療）
藤本　幸一（麻酔、集中治療）
岡本　拓磨（麻酔、小児麻酔、心臓麻酔、集中治療）
緒方　洪貴（麻酔、ペインクリニック）
佐藤　史弥（麻酔、ペインクリニック、小児麻酔）
宮本　和徳（麻酔、小児麻酔、ペインクリニック）
大場　祥平（麻酔、小児麻酔）
城戸　茜　（麻酔、集中治療）
尾下　幸子（麻酔、心臓麻酔）
濱中　優花（麻酔一般）
池垣　友康（麻酔、ペインクリニック、心臓麻酔）

認定施設番号：85

2025年度麻酔科管理症例数　6124症例

麻酔科管理全症例数	6124
小児（6 歳未満）の麻酔	193
帝王切開術の麻酔	145
心臓血管手術の麻酔	287
胸部外科手術の麻酔	482
脳神経外科手術の麻酔	318

特徴：麻酔科管理症例は緊急症例を除き、全例麻酔科術前外来受診を行う。安全かつ効率的な手術室運営を構築し、麻酔科管理症例数は全国でもトップレベルである。また、大学病院の特性から、極めてまれな症例、ハイリスク症例など特殊な麻酔管理も行われ、貴重な症例は学会で報告し、臨床麻酔のレベルアップに貢献している。基礎的な手技ひとつひとつを丁寧に指導し、特に気道確保のトレーニングは豊富なデバイス資源を元にプロならではの領域を目指す。各科との協力体制も良好で、手術室の支

柱としてコミュニケーション能力には定評がある。高機能シミュレーターによるトレーニングも可能である。また、大学院博士課程専攻、ペイン、緩和ケア、集中治療のローテーションなどのプログラムを構築することができ、各専攻医の目標に沿った研修を計画する。育児中の女性医師の教育支援体制を構築中であり、麻酔科医としての成長と両立する道を探る。

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター



研修実施責任者：渋谷　博美

専門研修指導医：渋谷　博美（麻酔）
天野　栄三（麻酔）
島川　宜子（麻酔）
石井　裕子（麻酔）
伊藤　千明（麻酔）
上田　祥弘（麻酔）
山路　寛人（麻酔、心臓麻酔）
中西　裕貴子（麻酔）
桐山　有紀（麻酔、心臓麻酔、集中治療)
浜川　綾子（麻酔）
山形　晃太（麻酔）

認定施設番号：584

2025 年度麻酔科管理症例数：3411 例

麻酔科管理全症例数	3411
小児（6 歳未満）の麻酔	32
帝王切開術の麻酔	27
心臓血管外科手術の麻酔	175
胸部外科手術の麻酔	110
脳神経外科の麻酔	145

特徴：当センターは、大阪市営地下鉄谷町線と中央線の「谷町 4 丁目」駅上にあり、 窓越しに大阪城と難波の宮が見えます。心臓血管麻酔専門医認定施設であり、低侵襲の MICS や大血管手術、mitral clip や TAVI などの麻酔も多く経験できます。そのほか多くの診療科の手術麻酔を施行しています。ロボット支援下低侵襲手術や手術室外で施行される脳血管内手術にも対応しています。外科系診療科との連携もとれており、とても働

きやすい職場です。ICU 研修も行っています。敷地内保育園、病児保育や夜間保育があります。

13) 大阪市立総合医療センター

研修プログラム統括責任者：山田　徳洪

専門研修指導医：山田　徳洪（麻酔）
池田　慈子（麻酔）
嵐　大輔（麻酔）
上田　真美（麻酔）
岡本　なおみ（麻酔）
小林　晶子（麻酔）
嶋津　和宏（麻酔、集中治療）
四宮　沙里（麻酔、集中治療）
片岡　恵里佳（麻酔）
藤間　凡未（麻酔）
中谷　誠二（麻酔）
中新　恭平（麻酔）

認定病院番号：686

2025 年度麻酔科管理症例数：9836 例

麻酔科管理全症例数	9836
小児（6 歳未満）の麻酔	1387
帝王切開術の麻酔	540
心臓血管外科手術の麻酔	232
胸部外科手術の麻酔	410
脳神経外科の麻酔	292

特徴：当院では一般的な症例の他に、以下のような特殊症例に関する研鑽を積むことが可能です。

・心臓麻酔：成人心臓外科：MICS、SHD、
・小児心臓外科：複雑心奇形手術、Glenn、Fontan 手術
・小児麻酔：新生児手術（食道閉鎖、横隔膜ヘルニア）、高難度手術、頭蓋形成手術
・産科麻酔：グレード A 帝王切開、合併症妊娠、無痛分娩
・胸部外科：気管ステント、ロボット支援下手術
・麻酔鎮静：小児の MRI 撮影、ERCP

・集中治療：成人心臓外科術後管理、呼吸不全、重症内科的疾患

地域基幹病院、大学附属病院と連携し、周術期全般を見渡せる高水準な麻酔科専門医を育成します。

14) 医療法人　行岡医学研究会行岡病院

研修実施責任者：多田羅　恒雄

専門研修指導医：行岡　秀和（麻酔、集中治療）

島田　憲宏(麻酔)

多田羅　恒雄(麻酔)

認定施設番号：1190

15) 大阪市立十三市民病院

研修実施責任者：島田　素子

専門研修指導医：島田　素子(麻酔)

小田　裕(麻酔)

重本　達弘(麻酔)

認定施設番号：839



16) 八尾徳洲会総合病院

研修実施責任者：谷　仁介

専門研修指導医：谷　仁介(麻酔)

池下　和敏(麻酔)

金沢　晋弥(麻酔)

仲村　光世(麻酔)

濱崎　亜弓(麻酔)

認定施設番号：1078

17) 奈良県立医科大学附属病院

研修実施責任者：川口　昌彦

専門研修指導医：川口　昌彦(麻酔)

渡邉　恵介（ペインクリニック）

惠川　淳二（集中治療）

内藤　祐介(麻酔)

西和田　忠(麻酔)

田中　暢洋(麻酔)

位田　みつる(麻酔)



藤原　亜紀(ペインクリニック)
園部　奨太(麻酔)
阿部　龍一(麻酔)
野村　泰充(麻酔)
植村　景子(麻酔)
甲谷　太一(麻酔)
小川　裕貴(麻酔)
吉村　季恵(麻酔)
紺田　眞規子(麻酔)
松浦　秀記(麻酔)
林　浩伸(麻酔)



専門医：奥田　千愛(麻酔)
大井　彩子(麻酔)
川瀬　小百合(麻酔)
西井　世良(麻酔)
坂本　悠巨(麻酔)
山本　由美子(麻酔)
松本　真理子(麻酔)
大前　あずさ(麻酔)

認定施設番号：51

特徴：手術麻酔だけでなく、集中治療、ペインクリニック、緩和医療を研修することができます。手術麻酔では、心臓血管外科麻酔、小児麻酔、産科麻酔、脳外科麻酔、胸部外科麻酔科に加え、大学病院として先端的な医療や重症例を経験できます。小児心臓外科麻酔、新生児手術、無痛分娩も経験できます。麻酔専門医だけでなく、集中治療、ペインクリニック、心臓血管麻酔、緩和ケアなどのサブスペシャリティーの専門医やの取得もサポートさせていただきます。

18) 和歌山県立医科大学病院

研修実施責任者：川股　知之
専門研修指導医：川股　知之（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
時永　泰行（麻酔）
神田　浩嗣（麻酔、心臓血管外科麻酔）
栗山　俊之（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
山﨑　亮典（麻酔、区域麻酔）
槙野　仁奈（麻酔）

平井　亜葵（麻酔）
黒崎　弘倫（麻酔）
吉田　朱里（麻酔、小児麻酔、心臓血管外科麻酔）
神田　佳典（麻酔）
丸山　智之（麻酔、ペインクリニック）
山﨑　景子（麻酔、集中治療）
専門医：関　尭文（麻酔）
角南　昇吾（麻酔）
中村　安寿左（麻酔）

認定施設番号：40

2025年度　麻酔科管理症例数 6273症例

麻酔科管理症例数	6273
小児（6歳未満）の麻酔	206
帝王切開術の麻酔	146
心臓血管手術の麻酔	413
胸部外科手術の麻酔	338
脳神経外科手術の麻酔	207

特徴：ペインクリニック、緩和ケア、集中治療のローテーション可能
ロボット支援手術、経カテーテル大動脈弁留置術など先進的手術症例、高度救命救急センターならではの救急手術症例など多くの手術症例を経験できる。また、無痛分娩、エコーガイド下、透視下ブロックを駆使したペインクリニック研修、緩和ケア病棟、緩和ケアチームでの研修、集中治療の研修といったフレキシブルな研修ができる。

19) 千船病院

研修実施責任者：角　千里
専門研修指導医：角　千里（産科麻酔）
星野　和夫（麻酔）
嘉山　邦仁（麻酔）
大山　泰幸（麻酔）
大嶋　圭一（麻酔）
平塚　剛（麻酔）
菅野　睦（麻酔）
渡邉　真理子（麻酔）

戸尾　まゆみ（麻酔）

認定施設番号：770

2025年度　麻酔科管理全症例数：4473症例

麻酔科管理症例数	4473
小児（6歳未満）の麻酔	28
帝王切開術の麻酔	667
心臓血管手術の麻酔	0
胸部外科手術の麻酔	11
脳神経外科手術の麻酔	36

特徴：　初期研修医を受け入れる初期研修医を受け入れる 308 床の地域の総合病院ですので、大病院では経験しにくい common　disease の待機手術や骨折や急性腹症などの緊急手術を幅広く行なっており、麻酔科医としての地力を鍛えることができます。2025 年度麻酔科管理件数は 4、473 件/年、うち全身麻酔は 2、233 件/年でした。地域周産期母子医療センター、MFICU（6 床）、NICU（15 床）、ICU（4 床）等を備え、24 時間母体搬送に対応しています。分娩件数は 2、600 件/年と大阪府随一ですので、一般手術麻酔に加えてハイリスク妊婦を含めた帝王切開（667 件/年）や無痛分娩（1、100 件/年）等の産科麻酔を経験することができます。無痛分娩は麻酔科医が 24 時間対応し、カテーテル入れたら終わりではない質の高い鎮痛を目指しています。6 ヶ月以上の期間でこれらの産科麻酔を集中的に研修する態勢も整えています。また、減量、糖尿病外科が高度肥満症麻酔の腹腔鏡下肥満手術を行っているほか、低侵襲手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入され、より低侵襲の手術も増加しています。

20) 東京医科大学病院

研修実施責任者：　中澤　春政

専門研修指導医：　中澤　春政（麻酔、集中治療、心臓麻酔）
大瀬戸　清茂（ペインクリニック、麻酔）
中澤　弘一（麻酔、集中治療）
合谷木　徹 (麻酔、ペインクリニック、区域麻酔)
柿沼　孝泰（麻酔、心臓麻酔、産科麻酔）
関根　秀介（麻酔、集中治療）
魚島　直美（麻酔）
小野　亜矢（麻酔、心臓麻酔）

齊木　梨香子（麻酔）
鈴木 直樹（麻酔、小児麻酔、心臓麻酔）
栗田　健司（麻酔、心臓麻酔、小児麻酔、区域麻酔）
都築　有美（麻酔）
唐仁原　慧（麻酔）

認定施設番号：28

特徴：好立地の施設で最先端の周術期医療にかかわり、安全で質の高い医療を実践しながら、麻酔科関連領域の研鑽を積むことができます。麻酔管理学、集中治療医学、ペインクリニック学の基礎を学び、麻酔科医にとって不可欠な知識、技術を身につけ、教育指導能力の獲得とチーム医療に必要な人間性やリーダーシップを身につけ、プロフェッショナルな麻酔科医になるための研修を提供します。

21) 国立循環器病研究センター

研修実施責任者： 前田　琢磨
専門研修指導医： 金澤　裕子（麻酔、心臓麻酔）
前田　琢磨（麻酔、心臓麻酔）
南　公人（麻酔、心臓麻酔）
下川　亮（麻酔、心臓麻酔）
月永　晶人（麻酔、心臓麻酔）
森永　將裕（麻酔、心臓麻酔）
三浦　真之介（麻酔、心臓麻酔）

認定施設番号：168

2025年度　麻酔科管理全症例数：2494症例

麻酔科管理症例数	2494
小児（6歳未満）の麻酔	230
帝王切開術の麻酔	52
心臓血管手術の麻酔	1706
胸部外科手術の麻酔	13
脳神経外科手術の麻酔	564

特徴： センター手術室は12室であり、そのうち4室はハイブリッド手術室です。ロボット手術専用室やCOVID対応陰圧手術室も設置しています。特に冬は緊急大動脈解離手術が多くなります。劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多いです。心臓

移植はおよそ月1回程度あります。麻酔科医はスタッフ8名レジデント18名で対応しています。休日を含めた毎日、麻酔科医2名が当直、オンコール1名ですべての緊急症に対応しています。

22) 大阪母子医療センター

研修実施責任者：竹下　淳（小児、産科麻酔）
専門研修指導医：竹下　淳（小児、産科麻酔）
川村　篤（小児集中治療）
濱場　啓史（小児、産科麻酔）
増茂　薫（小児、産科麻酔）
阪上　愛（小児、産科麻酔）
西垣　厚（小児集中治療）
専門医：征矢　尚美（小児、産科麻酔）
栗畑　綾香（小児、産科麻酔）
佐伯　淳人（小児、産科麻酔）
認定施設番号：260

2025年度　麻酔科管理全症例数：5824症例

麻酔科管理症例数	5824
小児（6歳未満）の麻酔	2122
帝王切開術の麻酔	421
心臓血管手術の麻酔	331
胸部外科手術の麻酔	13
脳神経外科手術の麻酔	62

]

特徴：小児麻酔と産科麻酔に関連するあらゆる疾患を対象とし、専門性の高い麻酔管理を安全に行っている。代表的な疾患として、胆道閉鎖症、胃食道逆流症、横隔膜ヘルニア、消化管閉鎖症、固形腫瘍（小児外科）、先天性水頭症、もやもや病、狭頭症、脳腫瘍、脊髄髄膜瘤（脳神経外科）、複雑心奇形（心臓血管外科、小児循環器科）、口唇口蓋裂（口腔外科）、小耳症、母斑、多合指(趾)症（形成外科）、分娩麻痺、骨欠損、多合指(趾)症、膀胱尿管逆流症、尿道下裂、総排泄腔遺残症（泌尿器科）、斜視、未熟児網膜症（眼科）、中耳炎、気道狭窄、扁桃炎（耳鼻科）、白血病、悪性腫瘍（血液、腫瘍科）、帝王切開、無痛分娩、双胎間輸血症候群（産科）などがある。さらに、小児では消化管内視鏡検査や血管透視、MRIなどの検査の麻酔、鎮静も、麻酔科医が行っている。

23) 大阪回生病院

研修実施責任者：大西　佳恵
専門研修指導医：大西　佳恵(麻酔)
専門医：土谷　妙（麻酔）
矢多　将大（麻酔）
認定施設番号　516

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募する。

6. 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、大阪公立大学麻酔科website、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

大阪公立大学医学部附属病院麻酔科・ペインクリニック科講師、医局長　舟井　優介
大阪市阿倍野区旭町 1-5-7
TEL 06-6645-2186
E-mail　gr-med-anesth@omu.ac.jp
Website　https://www.omu. ac. jp/med/anesth/

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識、技能、態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

１）十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
３）医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
４）常に進歩する医療、医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患、病態、経験すべき診療、検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習、２）臨床現場を離れた学習、３）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識、技能、態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識、技能、態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導の元、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA１～２度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識、技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識、技能、適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。この評価には看護師、臨床工学技士などによるヒアリングも参考とする。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修４年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義

務がある。労働環境、労働安全、勤務条件に関しては、原則として各研修施設の研修実施責任者の調整に委ねられるが、これらの項目も研修プログラムの評価に含められる。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13. 専門研修の休止、中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠、出産、育児、介護、長期療養、留学、大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して 2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して 2 年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての下記の施設が含まれる。

大阪ろうさい病院

JCHO 星ヶ丘医療センター
大阪医療センター
大阪市立総合医療センター
済生会中津病院
市立伊丹病院
兵庫県立こども病院

医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、当該施設で研修を開始した専攻医は、必要に応じて基幹施設や他の連携施設に週 1-2 回出張して特殊症例の経験を積むか、一定期間基幹施設ないしは他の連携施設に異動して麻酔研修を行う。一方、人員の不足により、上記施設の診療の質を維持することが困難となった場合は、基幹施設又は連携施設は自施設の診療の質を損なわない限りにおいて、可及的に専門研修指導医もしくは専攻医の派遣を行う。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達、指導する。